

入院するとせん妄が起こることがあります

① せん妄とは

全身状態が悪い
手術の後
環境の変化
脳卒中
点滴、安静、絶食、痛み

などが原因で
一定期間
意識が混乱する
ことです

② せん妄は多くの場合、一時的なもので、大半は身体の回復に伴って改善します。

せん妄の期間中は異常行動が続き、急に認知症になったように感じますが、醒めると元の状態に戻ります。

せん妄の症状を治療しないと、治療中の身体の病気が悪化したり、新たな合併症が起こり、入院期間が延長することがあります。

③ せん妄のときは、このような変化が起こります

注:すべての方に見られるわけではありません

☑ 場所や時間の感覚が鈍くなる

- ここがどこかわからない
- 入院していることがわからない
- 「帰る」と言い出す
- 今日が何月何日かわからない
- 昼と夜の区別がつかない
- 眠る時間と起きる時間が不規則になる
- 昼間よくねている

☑ 幻覚が見える

- 実際にはないものが見える
- 空中をつかむ動作をしたり、シーツをつまんだりする
- 「あそこに人がいる」と主張する

☑ 怒りっぽくなる

- 元の本人からは考えられない口調になる
- 暴言、時に暴力をふるう

☑ 落ち着きがない

- 何度もベッドから起き上がろうとする
- 繰り返しどこかに行こうとする
- 荷物を出したりしまったりする

☑ 話のつじつまが合わない

- 昔のことを今のことのように話す
- 過去と現在が混在する
- 現実とちがうことを話す

☑ 身体についている治療のための管を抜いてしまう

☑ 転倒・転落の危険がある

こんなケア、工夫をします

場所や時間の感覚を取り戻すために

- 時計やカレンダーを見えるところに置く
- なじみのある物(眼鏡、食器、パジャマ、スリッパ、入れ歯等)を持参する、家族の写真を見えるところに置く
- 日付や時間を何気なく会話の中に取り入れる
「入院して○日になるね」
「手術して○日経ったね」など

本人を尊重した会話をこころがける

- つじつまの合わない会話であっても、否定したり、指摘したりしない
- 混乱した会話であっても、訴えたいことがあるため、ゆっくり会話して内容を把握する努力をする
- せん妄時のことは、本人は覚えていないことが多いので、後からその時の様子を本人に話したりしない。「暴れて大変だったのよ」など

疼痛、苦痛の緩和につとめる

- 痛みや苦痛の表現の仕方は患者さんによってちがいます。落ち着かない場合は、苦痛を伴っていることがあります
- 苦痛には「痛い」「息苦しい」「だるい」「かゆい」「便秘」「眠れない」「気持ち悪い」などがあり、患者さんによっては苦痛をうまく表現できないことがあります
- 痛み止めを使用したり、患者さんの状態を見て対処します
- 眠れないとき、落ち着かないときに頓服で、睡眠薬や神経が落ち着く薬を使います

環境を整え、睡眠、覚醒のリズムを整える

- 昼間はブラインドを開け日光を取り入れ明るくし、適度な運動や刺激(テレビ、会話、散歩など)をする
- 他の患者さんとの会話もよい刺激に
- 夜は静かに、40～60Wのスポット照明を使用する
- 昼間、眠ってしまわないように話しかける特に15時以降の昼寝は禁物
- 内服薬や点滴などで興奮を鎮めたり、夜眠れるようにすることも必要

安全を守る

- 刃物(ナイフ、はさみ、つめきり)、ライターなどを患者さんの周りに置かない
- 転倒・転落予防のため、ベッドを低くする。ベッド柵をつける。ベッドサイドの環境を整える
- センサーを設置する。ミトンを装着する

ご家族様に手伝っていただきたいこと

- ただ、ご家族様がそばにいてだけで安心して落ち着かれることがあります。混乱した会話であってもご家族ならわかることもありますできるだけそばにいてあげてください
- ご家族様の顔が何よりの薬です